

第1学年3組 算数科学習指導案

令和7年1月30日(木) 第5校時
場所 1年3組 教室
児童数 男子15名 女子16名 計31名
授業者 教諭 松山 菜々子

1 単元名 おおきいかず

2 単元について

(1) 児童について

① 児童の実態

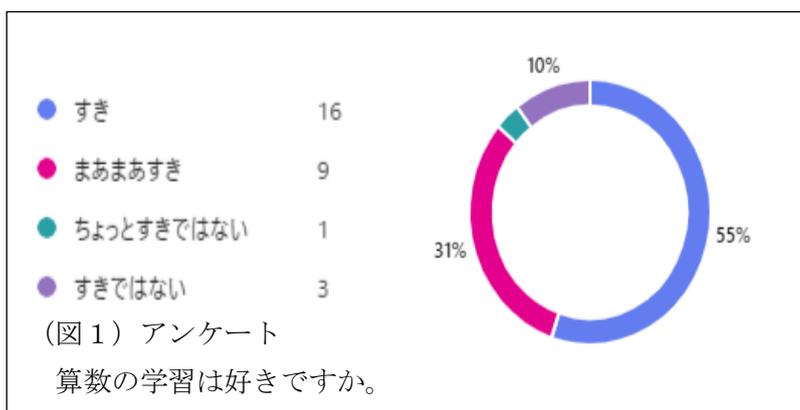
本学級の児童は、意欲的に学習に取り組んでいる児童が多い。入学して約9か月が経過したが、いろいろなことを知りたいという思いが強く、新しいことを知ると嬉しそうにしている場面が多く見られる。普段の生活でも何か問題解決をしているとき、一生懸命先生に聞いたり、友達同士で解決したりしようと頑張っている。どの教科においても、解決策を出せて嬉しそうにしている児童が多いが、なぜこの解決策がよいか、自分の言葉で説明することに抵抗を感じている児童も一定数いる。また、みんなの前で発表することに抵抗感がある児童もいる。

② 集積したデータから分かる児童の実態

(ア) 自作アンケート

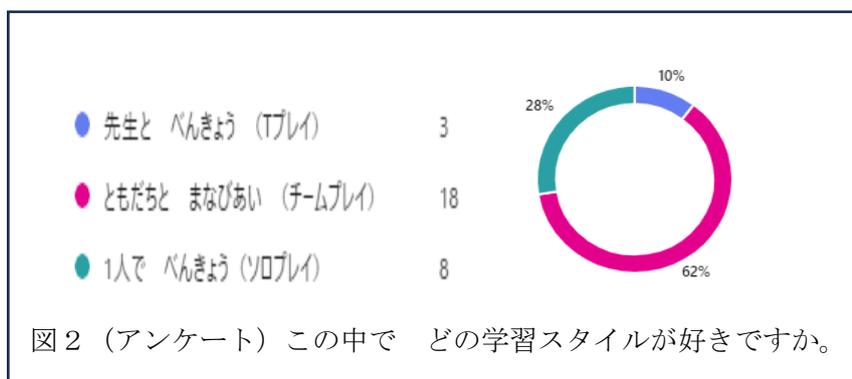
2学期の最後に、児童の実態を把握するために、算数の授業についてのアンケートを実施した。その結果、算数の授業に対して「好き」「まあまあ好き」と肯定的な回答をしている児童が86%であり、「ちょっと好きではない」や「好きではない」と否定的な回答をしている児童が14%である。この結果から、算数に対して少し苦手意識が出ている児童もいるが、肯定的に考えている児童が多いことが分かった(図1)。肯定的に考えている児童の意欲が低下しないように、また否定的に考えている児童の意欲が高まるように授業を工夫していく必要があると考える。

また、学びのスタイルを自分で決めることができるように、2学期から一斉指導だけではなく、さ

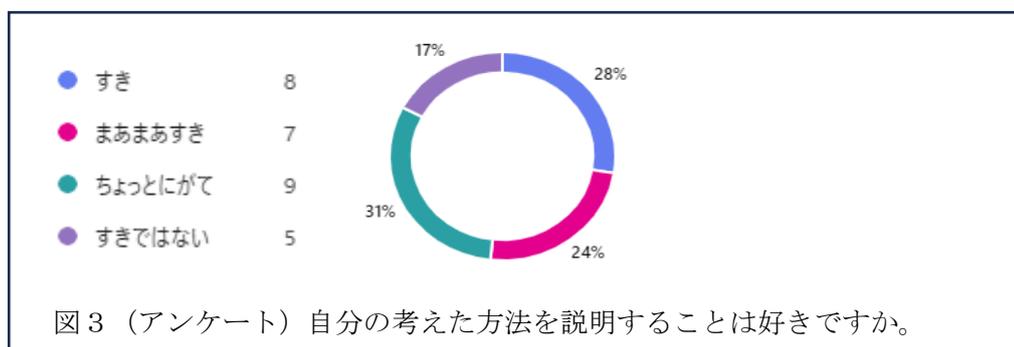


まざまな学習スタイルを経験させてきた。そうした中で、「どの学習方法が好きか」の問いでは、教師主体の一斉指導が好きな児童は10%と少なく、友達と勉強したり、1人で解決したりしたいと考えている児童が90%と多かった(図2)。授業の様子からは、その10%の児童も、普段は友達と学習する場面が多く見られる。この結果から、友達と一緒に学ぶことで、気軽に相談し

やすく、分からないことを聞き合って確認しているということが分かった。しかし、正しく解決に向かって学び合いが出来ているか、1人になっても自分の力で問題解決が出来るかという課題があるので、正しい解決方法で自分に合った学習スタイルを選ぶことができるようにする必要がある。



一方で、「自分の考えた方法の説明をすることは好きか」の問いでは、問題の説明をすることが苦手だと否定的な回答した児童が48%であった。半数近くの児童が算数の問題を解くことは好きだが、答えの求め方の説明をすることに苦手意識をもっていることが分かった(図3)。「みんなの前で発表すること」や「説明するときを使う言葉が分からない」という理由で苦手意識があると思われる。



さらに問題解決の手段についての問いでは、ブロック等の具体物操作や既習事項を生かした解決方法が好きな児童が多かった(図4)。「説明することに抵抗感がある児童」は、「穴埋めプリントがあるといいな」と回答している児童が7名、「タブレットにヒントが送られているといいな」と回答している児童が5名、「ならったけいさんほうほうをつかってけいさんすること」に回答している児童が3名であった(図4)。この結果から、ヒントとなるような話型や言葉があると自信がもてるのではないかと考えられるので、穴埋めプリントをレベル別に応じて準備したり、タブレットにヒントカードを送ったり、既習事項を復習できる掲示物コーナーを準備したり、説明の練習としてホワイトボードを活用することができるようにしたりする。そしてさまざまな解決手段を準備し、児童が自分で学習スタイルを決めて、達成することができた喜びを感じることができるようになりたい。

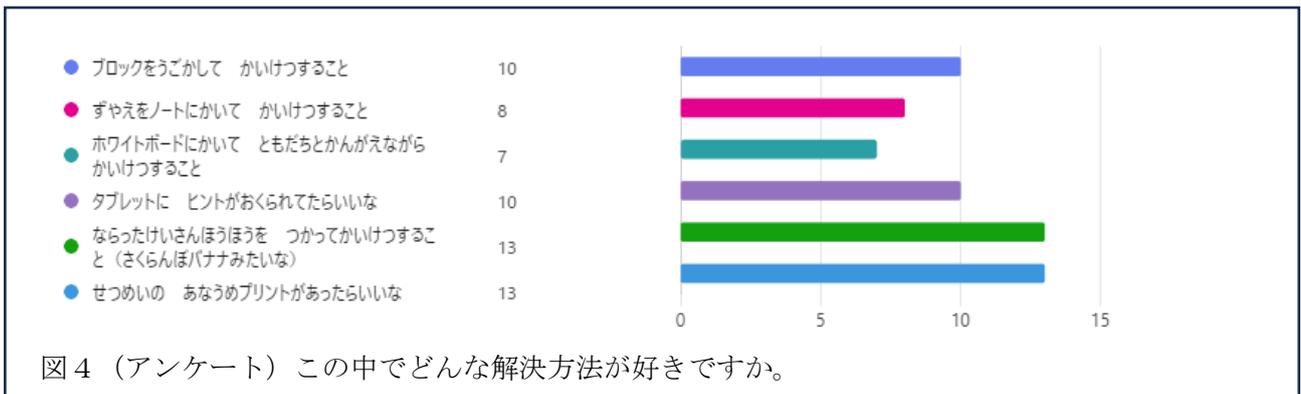
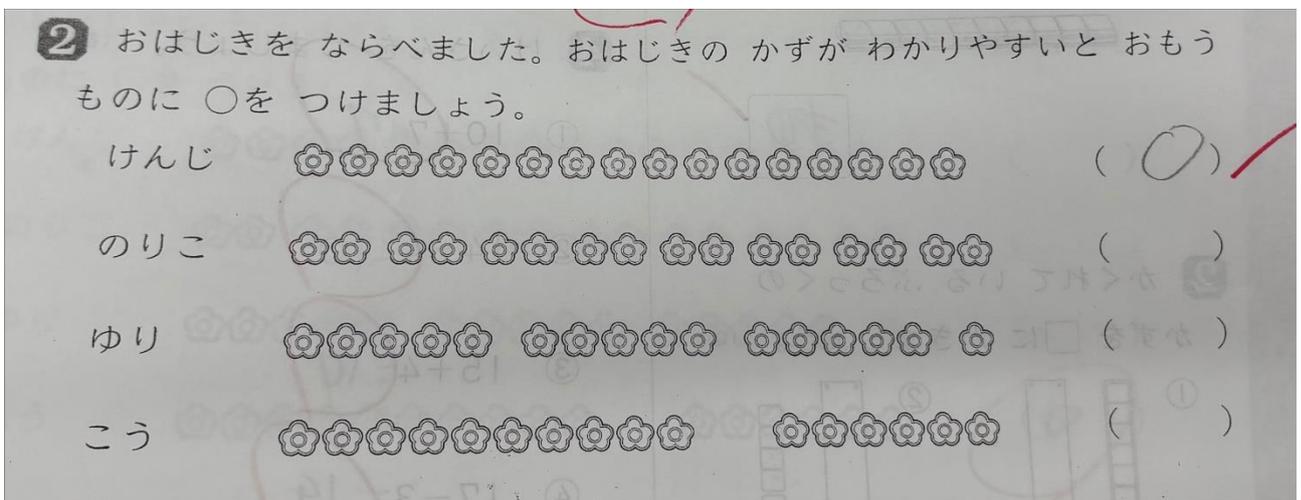


図4 (アンケート) この中でどんな解決方法が好きですか。

(イ) レディネステストの結果

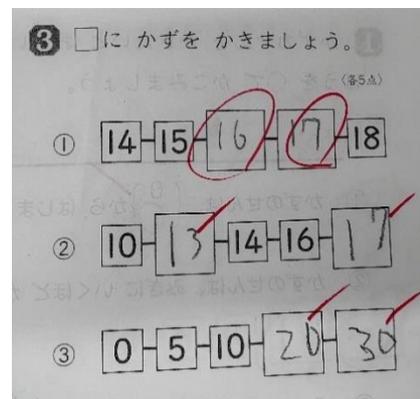
「おおきいかず」の学習に入る前にレディネステストを実施した。平均点数は92.9点であった。誤答の多かった問題は以下の3つである。

① 「10のまとまりとばらで考えるよさ」に正答できなかった児童は17名であった。考え方のよさを忘れていたり、問題の意味が分かっていなかったりするものと考えられる。



(写真1 レディネステスト)

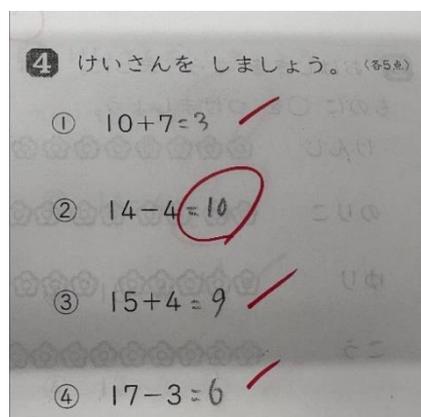
② 2つ飛ばし、5つ飛ばしの数字を答える問題が正答できなかった児童が11人であった。1から数えることはできるが、2つずつや5つずつで数える方法が身につけていない。生活経験が足りないことも考えられるが、問題を細部までよく見ておらず、誤答していると考えられる。



(写真2 レディネステスト)

③ 本時で関わってくる既習事項の10より大きい数のたし算とひき算は、正答率は他の問題と比

べて高かったが、ばら同士の計算をして終わらせたり、たし算とひき算を間違えたりしたりしている児童が2名いた。そこで、本単元では、児童が「10のまとまりをつくって数えること」のよさに気付くことができるように、具体物を使った操作を行うときに、「10のまとまり」を使って数える体験を大事にしていきたい。また実際に操作しているときに、操作の仕方について、考え方を児童に繰り返し問いかけ、操作の仕方を言語化できるようにしていきたい。さらに既習事項をまとめた学習コーナーを準備し、児童の知識定着を図ってきたい。



(写真3 レディネステスト)

(ウ) 毎日の記録 授業アンケート

本学級の児童が「おおきいかず」の1時間目の授業が終わった後にとったスクールダッシュボード「毎日の記録 授業のアンケート」の結果は以下の通りであった。

選択項目	主体性	達成	意欲
できた (楽しみだ)	21人	16人	16人
だいたいできた (少し楽しみだ)	3人	9人	6人
あまりできなかった (あまり楽しみではない)	2人	0人	1人
できなかった (楽しみではない)	0人	1人	3人
無回答	3人		

そこで、否定的な回答であった4名について、以下の通り手だてを講じる。

	実態	手だて
Aさん	<ul style="list-style-type: none"> ・3項目とも否定的な回答。 ・「算数が好き」と回答。 ・レディネステストは全問正解。 ・説明することに苦手意識あり。 ・振り返りでは、「できるようになったこと」など肯定的な内容記述をしている。 ・おはようメーターでほぼ毎日否定的な回答。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に対するモチベーションが低い ため、少しでも自信をもって取り組むことができるように、日常から肯定的な言葉がけをしていく。 ・友達と説明の練習をしているときに、肯定的な言葉がけをして、自信に繋げる。
Bさん	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性、意欲で否定的な回答。 ・「算数が好き」と回答。 ・レディネステストで80点。 ・「説明すること」は好きと回答。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の内容からつまづいているので、自力解決のときに、答えを求めることが難しい場合は、具体物を活用した支援をする。説明でつまづいている場合は、解決方法を教師と一緒にやる。 ・意欲の向上のため、小さな進歩でも称賛する。肯定的な言葉がけをする。

Cさん	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲に否定的な回答。 ・「算数が好き」と回答。 ・レディネステストで55点。 ・説明することは好きと回答。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の内容からつまづいているので、自力解決のときに、答えを求めることが難しい場合は、具体物を活用した支援をする。説明でつまづいている場合は、解決方法を教師と一緒に行う。 ・意欲の向上のため、小さな進歩でも称賛する。肯定的な言葉がけをする。
Dさん	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲に否定的な回答。 ・「算数が好き」と回答。 ・レディネステストは全問正解。 ・説明することに苦手意識あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しがもてないことに不安を感じる傾向があるため、自力解決のときに心配なことはないか確認をする。 ・不安を解消するため、自力解決のときに、方針と一緒に確認して、必要に応じてアドバイスや肯定的な言葉がけをする。

(エ) 学びの指標アンケートの結果

次の表は、2学期に実施した「学びの指標」から平均評価が低かった内容を抜粋したものである。

質問内容	平均評価
2 授業で学習したことを、振り返っている。	3.2
5 友だちのよいところに、気付いている。	3.1
7 自分で考えたり、発表したりするときにタブレットを使っている。	3.0

「5 ともだちのよいところに、気付いている」については、友達の学び方のよさや友達の考えのよさ、また友達と学ぶことで得られることに気付けるように、振り返りの場面で言及したり、教師が取り上げたりして称賛する。「友だちのよいところ」を知るよさも体感できるようにしていきたい。自分たちの解決方法をみんなにも知らせていくことで、友達のよいところに触れる機会をつくっていきたい。

「7 自分で考えたり、発表したりするときにタブレットを使っている」については、自力解決の場面で、オクリンクに送られたヒントカードを使えるようにしたり、考えをアップして驚きや喜びを共有できるようにして、ICTを活用していきたい。

(2) 教材観

本単元で扱う「大きい数」は、学習指導要領には以下のように位置づけられている。

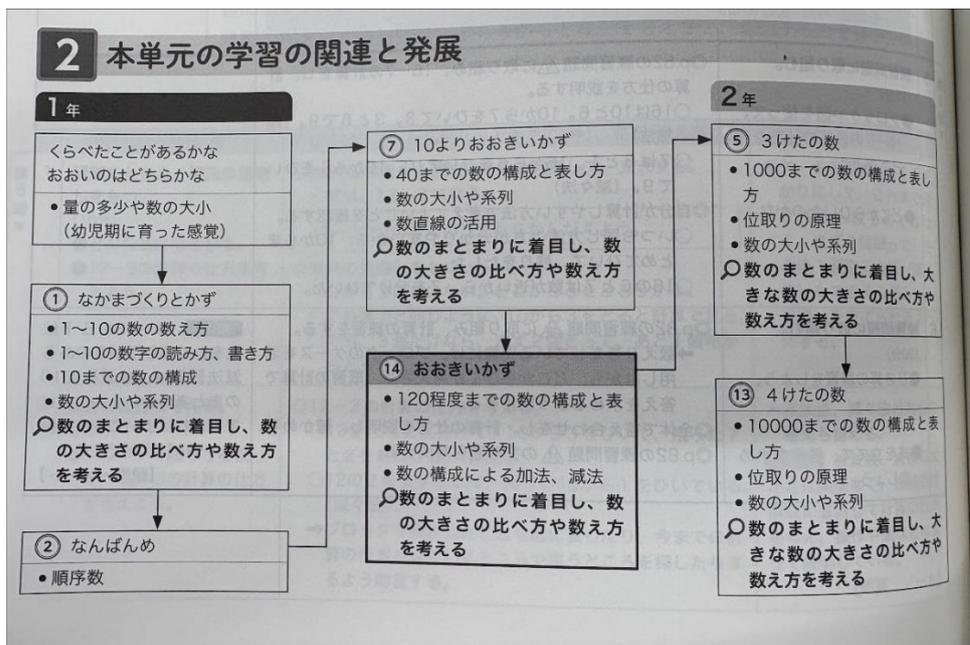
第1学年 A数と計算

- (1) 数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) ものとももの対応させることによって、ものの個数を比べること。
 - (イ) 個数や順番を正しく数えたり表したりすること。
 - (ウ) 数の大小や順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすること。
 - (エ) 一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。
 - (オ) 2位数の表し方について理解すること。
 - (カ) 簡単な場合について、3位数の表し方を知ること。
 - (キ) 数を、十を単位としてみること。
 - (ク) 具体物をまとめて数えたり等分したりして整理し、表すこと。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考え、それらを日常生活に生かすこと。
- (2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (エ) 簡単な場合について、2位数などについても加法及び減法ができることを知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

1学年第7単元「10よりおおきかず」では、段階的に数範囲を40程度まで拡張し、数を「何十といくつ」ととらえることを通して、20より大きい2位数についても扱ってきた。

本単元では、2学期の「10よりおおきかず」で学習した40までの数の学習を発展させ、数のまとまりに着目し、数の大きさと比べ方と数え方として十進位取り記数法の原理の基礎的な理解を図ることをねらいとしている。十進位取り記数法では、一、十、百などの単位の大きさを、位置で表現するので、記号が少なくすむ。また、数の大小についての判断や、第2学年で学ぶ筆算形式による加減計算もこれによって簡単にできるようになるなど、この記数法のよさに気づくようにすることが大切である。ここで育成される資質・能力は、第2学年以降の数の概念とその表し方や数の性質の理解に生かされるものである。

また十進位取り記数法の理解を図るために、10のまとまりをつくって数える活動などを通して、十を単位として数の大きさをみるができるようにする。「40は10の4こ分である」、「10が6こで60になる」という十を単位とした数の見方について指導することで、数の構成について理解を深め、2位数の加法及び減法計算の仕方を考えさせる。数を単位のいくつ分の集まりととらえたり、数を図や具体物で表したりすることで、数の大きさについての感覚を伴って用いられるようにしていく。



(2) 指導観

第1次では、まずひまわりの種や朝顔の種を数える活動を通して、初めに2位数の数え方、唱え方について学習する。「10が3こで30」、「30と8で38」、「10が5こで50」といった考えを確実に理解することができるように、2学期で学習した「10のまとまりとばら」で考える方法を想起できるように、「10よりおおきいかず」で扱った問題を取り上げ、既習事項の確認を行ってから学習に入る。学習したことを忘れないように、「学習コーナー」に、本単元で学習した内容を掲示する。

次に、種の数を数字で書く方法と2位数の構成について学習する。ここで初めて、「十のくらい」「一のくらい」とい新しい算数の言葉を学習する。「十のくらい」は10のまとまりの数を書くこと、「一のくらい」はばらの数を書くことを理解できるように、実際に位取り表を活用してブロック操作を行い、定着を図る。ブロックが30こあっても、十のくらいに30と書かない理由を自分の言葉で説明できるように、数の構成の定着と位取り表について理解させたい。さらに数の構成を確実に理解できるようにする。さらに数の構成を確実に理解できるように、掲示物を準備し、知識の定着を図りたい。5時間目は、2位数の構成について自分の言葉で表す学習である。自分の言葉で表すことができるように、オクリンクにブロックや位取り表などのヒントカードを送ったり、説明の穴埋めを用意したりする。

第2次では、100の数え方、読み方、書き方を学習する。「10のまとまりが10こで100」ということを確実に理解できるように、10のまとまりをつくって数を数えることを体験して定着を図る。また知識を忘れないように、学習コーナーを活用していく。

第3次では、数表から数の並び方の規則性や構成の説明や100までの数の系列や大小について学習する。数の並び方のきまりについて児童の考えを書く時間を確保し、「10のまとまり」などのキーワードの板書を行い、児童が自分の力で学習のまとめができるようにする。その後、数直線を活用して100までの数の系列や大小についての学習に入る。数力線を正しく活用できるように、既習事項の確認をしっかり行う。また、レディネステストでも「2つ飛ばし」や「5つ飛ばし」の問題でつまづいている児童が多かったので、基準の数をきちんと確認してから問題を解くということを確認する。

第4次では、100より大きい数について学習する。100と3で103であることを正しく理解できるように、学習コーナーを活用して「10が10こで100」「1が3こ1」ということを確認を行っ

てから学習に入る。

第5次では、2位数の数の構成を基にした計算について学習する。2学期に学習した『10といくつ』のときに学習したばらの数の計算をすることについて想起できるように、パワーアップ問題で既習事項の確認を行ったり、掲示物を活用したりする。さらに自力解決のときに、自分の好きな学習方法でそれぞれが問題解決できるように、既習事項の確認ができる掲示物、ヒントカードを自分たちで活用できるように準備する。計算の仕方の説明に対して苦手意識をもっている児童に向けて、教師が説明用の穴埋めプリントを準備したり、児童に肯定的な言葉がけをしたりして、自信をもって説明ができるようにしていきたい。説明する力を高めるために、練り上げのあとに、ペアで問題の説明をし合う。適応問題では、個に応じた指導を行うため、6問あるプリントを配付し、まず2問解いて教師が丸付けをするさらにできた児童は他の4問に取り組み、他にも「何十いくつといくつ」を使ったオリジナル問題を作るなど定着度に応じた学習をする。その後学習のまとめとして、「いかしてみよう」に取り組み。「かずさがしビンゴ」で学校にあるものの中で、いろいろなものの数を数える学習をする。このとき、10がいくつで何になるかに着目できるように、既習事項の確認を行ってから学習に入る。

3 「分かった」「もっとやりたい」子の育成を目指した指導と評価の手だて

学習の見通しをもったり自分の考えをもったりし、主体的に取り組めるようにするための工夫

手だて① 既習内容の確認や学習コーナーの活用

前時までの内容や本時の基礎基本となる内容を、パワーアップ問題として解いたり、学習コーナーに掲示したりしておき問いかけする。問題解決の手段となることができるようにする。

深い学びとなるための工夫

手だて② 誤解答の提示と根拠の明確化

あえて誤解答を提示し、なぜそれが誤りなのか考え、「10のまとまり」の考え方が定着できるようにする。また3つの考え方に触れて確認し、それぞれの考えのよさや多様に考えるよさに気付けるようにする。

個別最適な学び・協働的な学びとなるための工夫

手だて③ 学習スタイルの選択と個に応じた指導

「一人で考える」「友達と考える」「先生と考える」の中で、自分に合った学習方法を選択できるようにする。解決の見通しが見つからない児童には、実態に合わせて具体物の操作や図を用いるなど、教師主導で一緒に解決方法を見出していく。

手だて④ 説明する力を高める工夫

説明することが難しい児童が、自分の言葉で説明することができるように、説明用の穴埋めプリントを準備したり、オクリンクにヒントカードを送ったりするなど、活用できるアイテムを用意する。さらに、机間指導で説明の仕方に悩んでいる児童には、教師の前で説明させて、教師からアドバイスや肯定的な言葉がけをして、自信をもって説明できるようにする。説明の仕方が分かり自信をもって話すことができそうな児童は、複数の考え方、既習を想起させる声掛けをする。練り上げのときに、ペアで説明の練習をすることで、さらに計算の説明をする力を高めることができるようにする。

4 単元の目標

2位数や簡単な3位数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、10を単位として数をとらえる力及び数の構成に着目して数の計算の仕方を考える力を養うとともに、数で表すことよさを感じ、日常生活に活用しようとする態度を養う。

5 単元における評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	2位数や簡単な3位数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成や大小などを理解し、120程度までの数を数え数字を読んだり書いたり、2位数の数の構成を加法や減法の式に表すことができる。	既習の数の表し方の仕組みを基に、120程度までの数の数え方や読み方、書き方を考え、言葉やブロックなどを用いて表現したり、数の構成や既習の計算を活用して、簡単な場合の2位数の加減計算の仕方を考え、言葉やブロックなどで表現したりしている。	数の構成を活用して数の数え方や加減計算の仕方を考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

6 単元の指導計画（14時間扱い 本時11/14）

時	目標	学習活動	○留意点 ・手だて ◇評価規準
1	○2位数の数え方や唱え方、位取りの原理と記数法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・種の数の数え方を考える。 ・数えた数の表し方について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○10のまとまりで数えることを想起できるようにする。 ・10のまとまりとばらで数えると数えやすいことを既習事項の確認として取り上げる。（手だて①）
2	○2位数の数え方や唱え方、位取りの原理と記数法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・10のまとまりとばらに分けて表せばいいことをまとめ、位取り記数法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「位」と「数字」が混合しないように、「～の部屋」という意味を補いながら指導する。 ・「38」について、「3のくらい」「8のくらい」という誤解答を提示し、なぜそれが謝りなのか考えさせる。（手だて③） ◇位取り記数法は書く位置の違いを利用して表していることを理解し、2位数を書くことができる。【知識・技能】 ◇既習を基に、2位数の数え方や唱え方、書き方などを考えようとしている。【態度】
3	○2位数の数え方の	<ul style="list-style-type: none"> ・卵やペン、シールの数を数 	○数えるときに、10のまとまりがい

4	理解を確実にする。	<p>える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルのふたなどの数を、印をつけるなどの工夫をして数える。 	<p>くつかで考えるように指導する。</p> <p>○位取り表を活用して、10のまとまりがいくつ、1がいくつかを考えて数えるように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10のまとまりが7こ、ばらが8こあわせて78が説明できるように、説明用のプリントを用紙し、声に出して言えるようにする、(手だて⑤) <p>◇40より大きい個数を10ずつまとめて数えることができる。</p> <p>【知識・技能】</p> <p>◇「10のまとまりがいくつと端数がいくつ」という数の見方を活用して、ものの数の数え方を考え説明している。【思考・判断・表現】</p>
5	○2位数の構成を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロックや位取り板で数を表す。 ・2位数の構成を理解し、表し方を練習する。 	<p>○76を言葉で表すことができない児童は、具体物等の操作をしたり、図を使って考えたりすることができるようにする。</p> <p>◇2位数の構成を理解し、数の構成を表すことができる。【知識・技能】</p> <p>◇2位数を、位取りに対応して10のまとまりの数と10未満の数の合成として考え、言葉や位取り板、ブロックなどを用いて説明している。【思考・判断・表現】</p>
6	○100の数え方や読み方、書き方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉の数をかぞえ、99の次は100と書き表すことを知る。 	<p>○実際に10のまとまりの数を数えて10が10こで100になることに気付かせる。</p> <p>○10が10こで100を合言葉にして覚えやすいようにする。</p> <p>◇10が10こ集まると100になることを理解している。【知識・技能】</p>
7	○数表から数の並び方の規則性をとらえ、数の規則性や構成を説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・0～100の数表を見て、気付いたことを発表する。 ・数表の数の並び方の規則性についてまとめる。 ・数表の数の並び方を用いて、数をあてる活動に取り 	<p>○きまりが見つかることができるように声を掛ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりを見つけるときに、学習方法の選択を児童がして、考えを見つけたり深めたりできるようにする。(手だて④)

		組む。	◇位の数字に着目するなどして数表の数の並び方のきまりを考え、言葉などで説明している。 【思考・判断・表現】
8	○100までの数の系列や大小を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・数直線を見て、100までの数と対応づける。 ・数直線を用いて数の系列や大小を確かめる。 	<p>○数直線の読み方を理解できるように、まず線のスタート、線の数を数えることができるように数の探し方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期に扱った、「かずのせん」について取り上げ、既習事項の確認をしてから本時に入る。(手だて①) ・数の系列を考えるときに、誤解答を取り上げることで、なぜそれが誤りなのかを考えさせる。(手だて③) <p>◇数直線と数に対応づける活動を通して、数の系列、大小を理解し、数直線を使って数を読んだり表したりすることができる。【知識・技能】</p>
9	○具体物を数えることを通して、120程度までの数の唱え方や系列を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉の写真を見て、100とあといくつあるかたしかめる。 ・100と3で「ひゃくさん」と読み。「103」と書くことを知る。 ・120程度までの数の唱え方、並び方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習したポイントを確認してから本時に入る。(手だて③) <p>○本時も前時と同じように数えて問題解決ができることを確認する。</p> <p>◇100より大きい数について、100と1～2位数の合成ととらえればよいことを理解し、100より大きい数を数えたり唱えたりすることができる。</p> <p>【知識・技能】</p>
10	○2位数の数の構成(何十といくつ)を基にした加減計算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・数の構成(何十といくつ)に基づいて、$30+4$、$30-4$などの式に表す。 ・何十と1位数の加法とその逆の減法の計算の仕方を考える。 	<p>○ブロック操作を行い、何十といくつに分けて計算することを理解できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算方法を言葉で説明できるように、説明用のプリントを準備し、児童が選択できるようにする。(手だて⑤) <p>◇$30+4$、$34-4$などの計算は、数構成(何十といくつ)を基に考えればよいことを理解し、その計算ができる。</p>

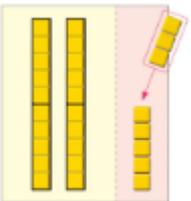
			【知識・技能】
⑪ 本 時	○繰り上がりや繰り下がりのない2位数と1位数との加減計算の構成に着目して考え、説明することができる。	・2位数を位ごとに分解してとらえて一の位の数に着目し、 $25+3$ や $28-3$ などの計算の仕方を考える。	<p>・前時の既習事項をもとに考えられるようにする。(手だて①)</p> <p>○ブロック操作を行い、計算方法の見通しがもてるようにする。</p> <p>○児童が学びの選択をできるように、さまざまな解決方法を用意する。</p> <p>◇$25+3$、$28-3$などの計算の仕方を理解し、計算することができる。</p> <p>【知識・技能】</p> <p>◇数の構成に着目して、$25+3$、$28-3$などの計算の仕方を考え、操作や図などを用いて説明している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
12.	2位数の数の構成(10がいくつ)を基にした何十±何十などの計算の仕方を理解し、その計算ができる。	・数の構成(10がいくつ)に基づいて、 $30+20$ や $50-20$ などの式に表し、計算の仕方を考える。	<p>○前時の内容を踏まえて、本時との違いに気付くことができるようにする。</p> <p>◇何十±何十などの計算の仕方を理解し、計算することができる。</p> <p>【知識・技能】</p> <p>◇何十±何十などの計算の仕方を10を単位として考え、具体物や言葉を用いて説明している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
13 14	○単元の学習を日常生活に活用して、問題を解決する。	<p>いかしてみように取り組む。</p> <p>・グループで「かずさがしビンゴ」に取り組む。</p> <p>・学校内にあるものの中から、120程度までのものを探し、その数を数える。</p> <p>・十の位の数字に着目しながら、「かずさがしビンゴ」に取り組む。</p>	<p>・これまでの学習を振り返りながら問題を解けるように学習コーナーに掲示する。(手だて①)</p> <p>○オクリンクを活用して、児童が見つけたものをクラスで共有できるようにする。</p> <p>◇学習内容を適切に活用して問題を解決している。【思考・判断・表現】</p> <p>◇身の回りにあるものの数に興味をもち、単元の学習を活用しながらその数を数えようとしている。【態度】</p>

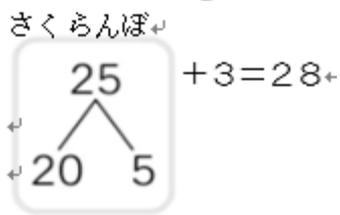
7 本時の学習指導（11/14時）

(1) 目標

- ・繰り上がりや繰り下がりのない2位数と1位数の加減計算の仕方を、数の構成に着目して考え、説明することができる。 【思考力・判断力・表現力等】

(2) 展開

学習活動・内容	○指導上の留意点 ◆評価規準（観点：方法）	時間
<p>1 パワーアップ問題を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> $40 + 5 =$ </div>	<p>○前時に学習した、『何十といくつ』でたし算とひき算ができることを確認する。</p> <p>○『何十といくつ』で計算することが大事であることを確認して、板書する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>手だて① 既習内容の確認や学習コーナーの活用</p> <p>前時までの内容や本時の基礎基本となる内容を、パワーアップ問題として解いたり、学習コーナーに掲示しておき問いかけたりして、思い出せるようにする。</p> </div>	2分
<p>2 問題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> $⑤ 25 + 3$ </div>	<p>○前時の問題と比較し、「何十いくつといくつ」を使った計算をすることに気付くように前時の掲示物を活用する。</p>	3分
<p>3 課題とめあてを立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>⑥ けいさんのしかたをかんがえて、せつめいしよう</p> </div>	<p>○課題を立てた後には、自分のめあてを立てられるようにルーブリックで自分のめあてを選択し、プリントに記入する。</p>	4分
<p>4 $25 + 3$の計算の仕方を考え、問題解決をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto;">  <p>ブロックを使った考え</p> </div>	<p>手だて④ 学習方法の選択と一斉指導</p> <p>一人で考えたり友達と考えたりヒントを使ったり、自力解決の方法を選択できるようにする。解決の見通しがつかない児童には、声を掛け黒板前に集め、実態に合わせて教師主導で一緒に解決方法を見出していく。</p> <p>○机間指導で、答えを求めることが難しい児童は、具体物操作を教師と一緒にすることで、まずは答えを求めることができるようにする。</p>	10分
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>手だて④ 説明する力を高める工夫</p> <p>答えは分かったが説明することが難しい児童には、まずは説明用のプリントを活用したり、オクリンクにヒントが送られたりしているので、活用するように声を掛ける。</p> </div>	



さくらんぼ計算を使った考え

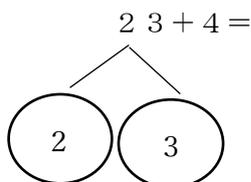
十のくらい	一のくらい
2	5

+3

位取りを使った考え

5 考えを発表し合い、練り上げ、解決する。

6 誤答を取り上げる。



このわけかたは
なぜいけないのでしょうか。

○机間指導で、説明ができたが説明の仕方に悩んでいる児童には教師の前で説明させて、教師からアドバイスや肯定的な言葉がけをして、自信をもって説明ができるようにする。

○説明の仕方が分かり自信をもって話すことができるような児童は、ホワイトボードを活用して、友達と説明の練習をするように声を掛ける。

手だて② ICT・ホワイトボードの活用

児童の考えをオクリンクやホワイトボードに掲示するようにし、友達の考えのよさに気付くことができるようにする。

手だて⑤ 説明する力を高める工夫

自信をもって説明できるように、机間指導で肯定的な言葉がけをしたり、ヒントカードや穴埋めプリントを活用したりする。

○練り上げのときに、「10のまとまりとばら」や「何十といくつ」、「十の位」「一の位」のキーワードが出てくるように、考え方の大事なことを児童に問いかける。

○次の問題で、それを生かして考えたりまとめたりできるように、キーワードを板書する。

○ばら同士で計算することができるように、何十といくつを十の位と一の位で分けて計算することを確認する。

○たし算で考えた、ばら同士の計算をすると、求めることができることに気付けるように、板書したキーワードに触れる。

手だて③ 誤解答の提示と根拠の明確化

あえて誤解答を提示し、なぜそれが誤りなのか考え、児童の深い学びを促せるようにする。新しい学習内容と既習の学習内容との共通点や相違点を考え、既習の学習内容を使って考えることができること（応用されていること）に気付けるようにする。

5分

2分

<p>7 ペアで計算の仕方を説明し合う。</p> <p>8 $28 - 3$の計算の仕方を考える。</p>	<p>○本時のキーワードを活用して説明することができるように、できている児童を称賛する。</p> <p>○説明がさらにブラッシュアップするように、板書したキーワード使って、どんな説明がよいかわかるようにする。</p> <p>○ひき算もばらでできることに気付いた児童を称賛する。</p> <p>◆繰り上がりや繰り下がりのない2位数と1位数の加減計算の仕方を、数の構成に着目して考え説明している。【思・判・表：観察・プリント】</p>	<p>2分</p> <p>5分</p>
<p>9 本時の学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>㊦「何十といくつ」をわけて、ばらのかずを けいさんするとできる。</p> </div> <p>・となり同士で、本時のまとめを言い合う。</p> <p>10 適用問題に取り組む。</p> <p>11 本時の振り返りをする。</p> <p>・ルーブリックの達成度を確認する。</p> <p>・タブレットの「毎日の記録 授業アンケート」で本時の学習を振り返る。</p> <p>・プリントに記述で振り返りを書く。</p>	<p>○「何十といくつ」を分けて、いくつ同士を計算するとできることを確認する。</p> <p>○分けて計算する書き方を児童と確認する。</p> <p>○キーワードを使って言えるように声掛けをする。</p> <p>○「何十いくつ」をわけて計算することを確認する。</p> <p>○言えていないペアには、何が大事だったか一緒に確認をして、ポイントが押さえることができるようにする。</p> <p>○6問の中で、2問選んで解くように声を掛ける。2問解き終わった児童は、赤帽子をかぶり解き終わった合図をする。教師は2問解き終わった児童の丸付けをする。解くことができた児童には肯定的な言葉がけをし、難しい児童には解き方の確認を行う。</p> <p>○終わった児童は、残りの問題を解いてもよいことを伝え、問題を進めることができるようにする。</p> <p>○計算が早く終わった児童には、何十といくつといくつを使ったオリジナルの計算問題を作り、自分で解くように声を掛ける。</p> <p>◆計算の仕方を理解し、計算することができる。</p> <p>【知識・技能：観察・プリント】</p> <p>○本時のルーブリックを提示し、自分の達成度がどこまでだったか確認できるようにする。</p> <p>○次の授業では、どんな計算が出てくるか想像させる問いかけをし、次時の意欲につながるようにする。</p>	<p>2分</p> <p>6分</p> <p>4分</p>

8 提示資料

本時のルーブリック

本日のルーブリック

☆☆☆ (ほし3)・・・ブロックをうごかしたり、ずをつかってせつめいすることができる。

☆☆ (ほし2)・・・なったことばをつかって せつめいすることができる。

☆ (ほし1)・・・じぶんのことばで せつめいすることができる。

9 板書計画

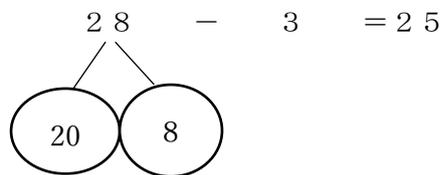
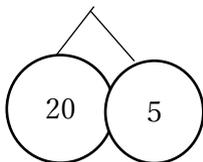
⑥ $40 + 5 = 45$

なん十といくつ でけいさん!

⑦ $25 + 3 = 28$

⑧ けいさんのしかたをかんがえて
せつめいをしよう。

$25 + 3 = 28$



「10のまとまり」と「ばら」
「何十といくつ」
「十のくらい」「一の位」

⑨ 「何十といくつ」をわけて、
ばらのかずを けいさんするとできる。